

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 河本 恵理

〔題名〕

ペリネイタル・ロスを経験した父親へのケアに対する助産師への教育に関する研究

〔要旨〕

本研究の目的は、ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズを明らかにし、父親へのケアの実態及び父親へのケアに対する助産師の学習ニーズを明らかにしたうえで、「ペリネイタル・ロスを経験した父親に対する助産師教育プログラム」開発への示唆を得ることである。

研究1で、死産を経験した父親12名に半構成的面接を実施し、M-GTAを用いて、ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズを明らかにした。児の死に直面した父親は、《予期せぬ児の死への衝撃》《妻との心理的距離》《我が子を失った悲しみの整理》《手探りで妻を支える役割の遂行》《児の父親としての意識の芽生え》を経験し、《新しい家族の形の構築》を図り、日常生活に適応していた。また、父親のケア・ニーズには《父親自身の悲しみへのケア》《父親であることを実感できるケア》《妻を支えるためのケア》《妊娠・出産についての情報提供》があった。

研究2で、助産師を対象に質問紙調査を実施し、ペリネイタル・ロスを経験した父親へのケアの実態と父親へのケアに対する助産師の学習ニーズを明らかにした。分析対象は197名であった。「父親の悲嘆プロセスを説明する」は実施率6割未満、自立度5割であった。また、妻を支えるためのケアは高い実施率であったが、恒常的に実践されている割合は低かった。助産師の96%が父親へのケアに対する学習を希望し、父親の理解につながる知識やケア技術向上に関する学習ニーズがあった。

研究3で、研究1と研究2を統合し、教育プログラムの構成内容を検討した。

ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズ及び父親に対するケアの実態と助産師の教育ニーズを明らかにし、教育プログラム開発への示唆を得た。本教育プログラムの活用により、助産師は父親のケア・ニーズに添ったケアを提供することができると思われる。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1518 号	氏 名	河本 恵理
論文審査担当者	主査教授	清水 昭彦	
	副査教授	守田 孝 寛	
	副査教授	田中 満由美	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
ペリネイタル・ロスを経験した父親へのケアに対する助産師への教育に関する研究			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
1. ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズ			
掲載雑誌名 山口医学			
第67巻 第2号 (頁未定) (平成30年5月 掲載・掲載予定)			
2. ペリネイタル・ロスを経験した父親へのケアの実態とペリネイタル・ロスを経験した父親へのケアに対する助産師の学習ニーズ			
掲載雑誌名 山口医学			
第67巻 第2号 (頁未定) (平成30年5月 掲載・掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>本研究の目的は、ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズを明らかにし、父親へのケアの実態及び父親へのケアに対する助産師の学習ニーズを明らかにしたうえで、「ペリネイタル・ロスを経験した父親に対する助産師教育プログラム」開発への示唆を得ることである。</p> <p>研究1で、死産を経験した父親12名に半構成的面接を実施し、M-GTAを用いてペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズを明らかにした。児の死に直面した父親は、《予期せぬ児の死への衝撃》《妻との心理的距離》《我が子を失った悲しみの整理》《手探りで妻を支える役割の遂行》《児の父親としての意識の芽生え》を経験し、《新たな家族の形の構築》を図り、日常生活に適應していた。また、父親のケア・ニーズには《父親自身の悲しみへのケア》《父親であることを実感できるケア》《妻を支えるためのケア》《妊娠・出産についての情報提供》があった。</p> <p>研究2で、助産師を対象に質問紙調査を実施し、ペリネイタル・ロスを経験した父親へのケアの実態と父親へのケアに対する助産師の学習ニーズを明らかにした。分析対象は197名であった。「父親の悲嘆プロセスを説明する」の実施率6割未満、自立度5割であった。また、妻を支えるためのケアは高い実施率であったが、恒常的に実践されている割合は低かった。9割の助産師が父親へのケアに困難感を抱いていた。助産師の96%が父親へのケアに対する学習を希望し、父親の理解につながる知識やケア技術向上に関する学習ニーズがあった。</p> <p>研究1と研究2を統合し、教育プログラムには、ペリネイタル・ロスを経験した父親の悲嘆のプロセスやケア・ニーズへの理解、父親へのケアへの理解を深める内容を含む必要があると示唆された。</p> <p>本教育プログラムの活用により、助産師は父親のケア・ニーズに添ったケアを提供することができると考える。</p> <p>本論文はペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケア・ニーズならびに父親へのケアに対する助産師の学習ニーズを明らかにし、「ペリネイタル・ロスを経験した父親に対する助産師教育プログラム」開発への示唆を示したものであり、ペリネイタル・ロスを経験した父親に対する看護の今後の展開に大きく寄与するものであることから、学位論文として価値あるものと認めた。</p>			
備考 審査の要旨は800字以内とすること。			